



**TOYO ADVANCE 5**

# 2026年3月期 決算説明資料

2026年6月12日

証券コード  
5936 **TOYO**Shutter  
東洋シャッター株式会社

## 2026年3月期決算の総括

- 売上高は前年度比で約3%の増収、期初業績予想も上回り21,455百万円
- 営業利益は減益。上半期で出遅れるも、下半期で盛り返し、1,249百万円まで挽回

## 2027年3月期通期見通し

- 引き続き非住宅着工床面積の動向は厳しいが、増収かつ営業・経常利益段階では増益を計画  
当期純利益は減益計画ながら増配を予定
- 前年度同様、第2四半期までは受注状況を勘案し、減収減益を予想

## 中期経営計画－TOYO ADVANCE 5進捗状況

- 最終年度(2030年3月期)、売上高250億円、営業利益20億円の達成に向け、成長戦略を推進
- 成長戦略商品である「TSウォータータイト」が内閣官房「国土強靱化 民間の取組事例集」に選定



**TOYO ADVANCE 5**

2026年3月期 決算概況

2027年3月期 決算見通し

中期経営計画「TOYO ADVANCE 5」の進捗状況

appendix



## 2026年3月期 決算概況

# 2026年3月期 決算概況

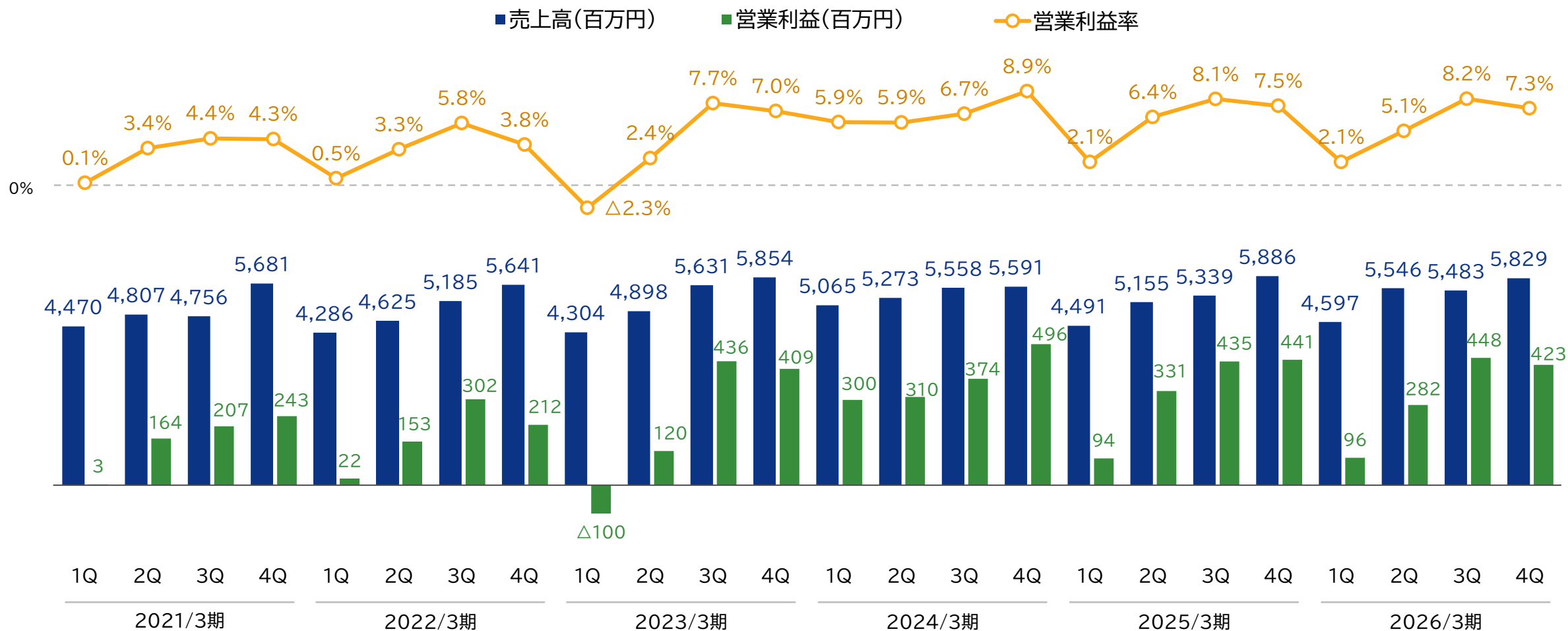
- 売上高は重量シャッター及びメンテサービス事業での売上増により増収で着地
- 営業利益は増収によるプラス効果があるも、受注競争に伴う売上総利益率の低下により減益
- 当期純利益は賃上げ促進税制のプラス効果により増益

(百万円)	2025/3期 実績	2026/3期				
		期初計画	実績	前期比		期初計画比
				増減額	増減率	
売上高	20,871	21,000	<b>21,455</b>	+584	+2.8%	+455
営業利益	1,301	1,320	<b>1,249</b>	△52	△3.9%	△71
経常利益	1,210	1,240	<b>1,179</b>	△31	△2.6%	△61
親会社株主に帰属する当期純利益	792	800	<b>829</b>	+37	+4.7%	+29
1株当たり当期純利益(EPS)	125.16円	126.32円	<b>131.05円</b>	+5.89円	—	+4.73円
ROE	8.6%	8.4%	<b>8.3%</b>			—

# 四半期決算の推移

- 2026年3月期第1四半期および第2四半期は前年同様、低調なスタート
- 第3四半期以降は例年水準の売上高を確保し挽回。通期営業利益率は前年度比で若干の低下に留まる

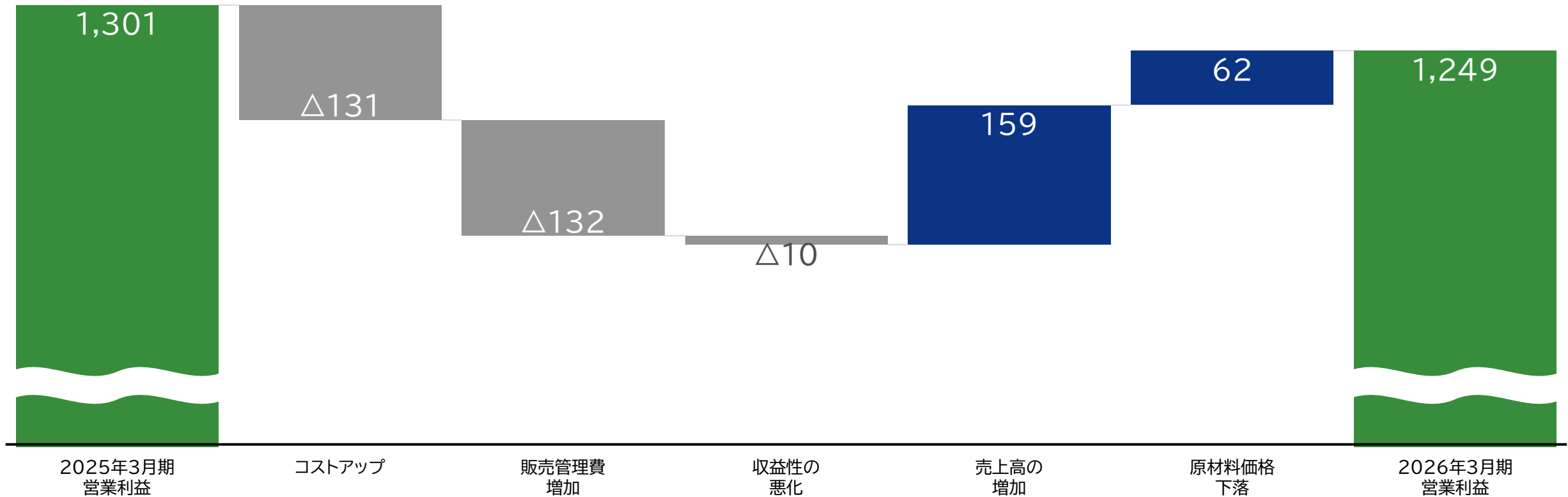
(ご参考)四半期売上高・営業利益の推移



# 営業利益増減要因分析

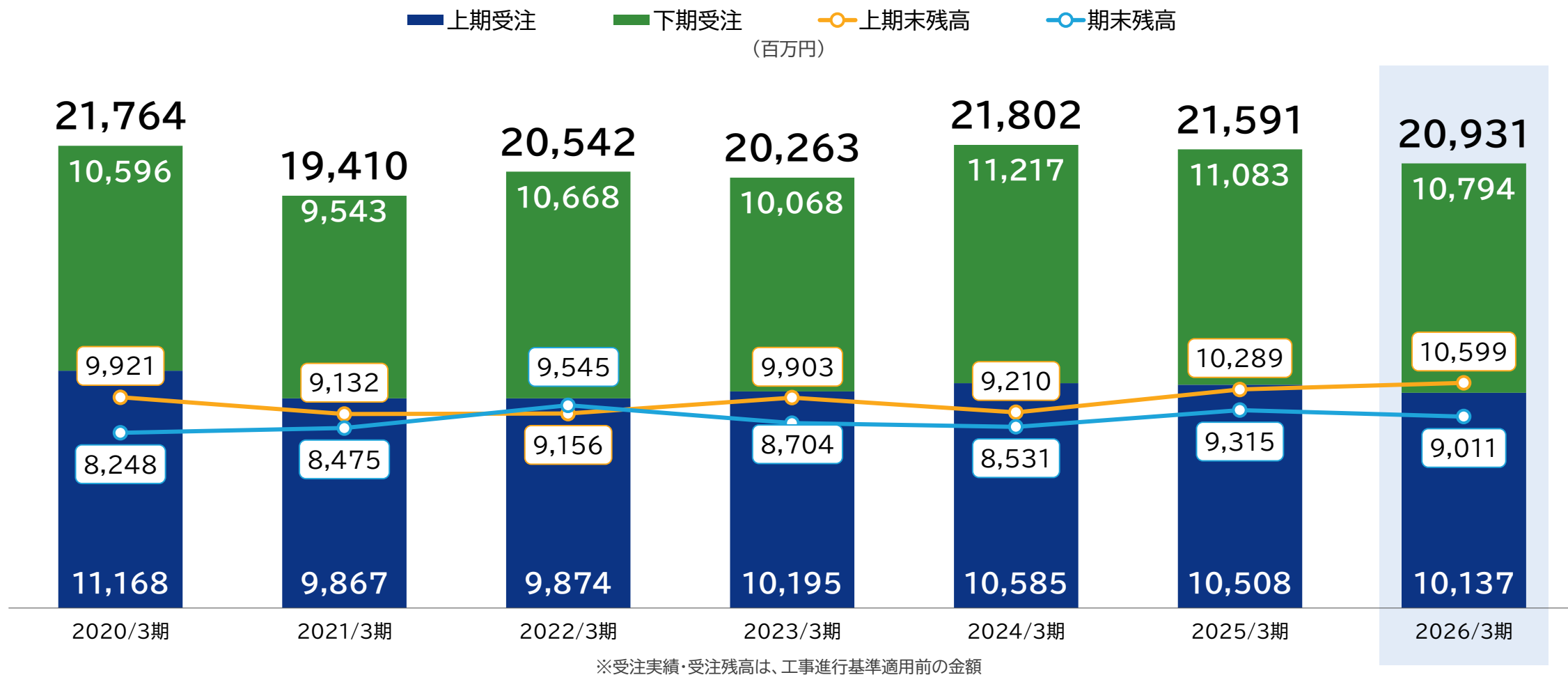
- 減益要因: 部品調達や物流のコスト増、販売管理費増等により273百万円減益
- 増益要因: 売上高の増加、鋼板価格が下がったこと等により221百万円増益

■ 増加 ■ 減少 (百万円)



# 受注実績・受注残高推移

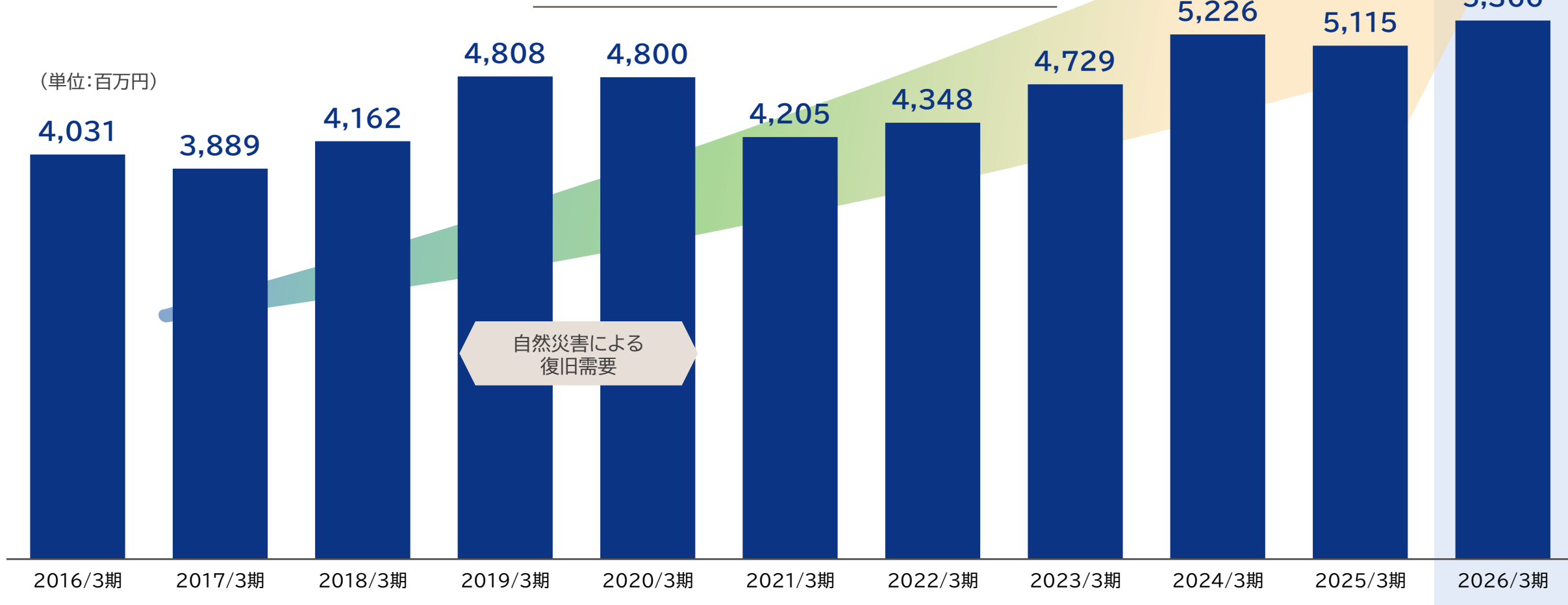
- 受注実績は、相応の水準を維持したものの前期を下回る
- 期末残高は、受注競争激化の中、不採算案件の受注手控えもあり、前年同期比3%減の90億円



# メンテサービス事業の状況

- 積極的な営業活動により、過去最高水準の売上高
- 今後も人員の増強を図り、更なる受注の獲得を目指す

メンテサービス事業売上高の推移



# 2026年3月期 キャッシュ・フロー計算書

- 営業活動CF:取適法に基づく支払サイトの短縮の影響が軽減したことによるもの
- 投資活動CF:固定資産の取得による支出の増加によるもの
- 財務活動CF:リース債務の返済による支出の増加によるもの

(百万円)	2025/3期	2026/3期
期首現金・現金同等物残高	4,699	3,799
営業活動によるキャッシュ・フロー	△160	197
投資活動によるキャッシュ・フロー	△66	△106
フリーキャッシュ・フロー	△226	91
財務活動によるキャッシュ・フロー	△672	△782
期末現金・現金同等物残高	3,799	3,107



# 2027年3月期 決算見通し

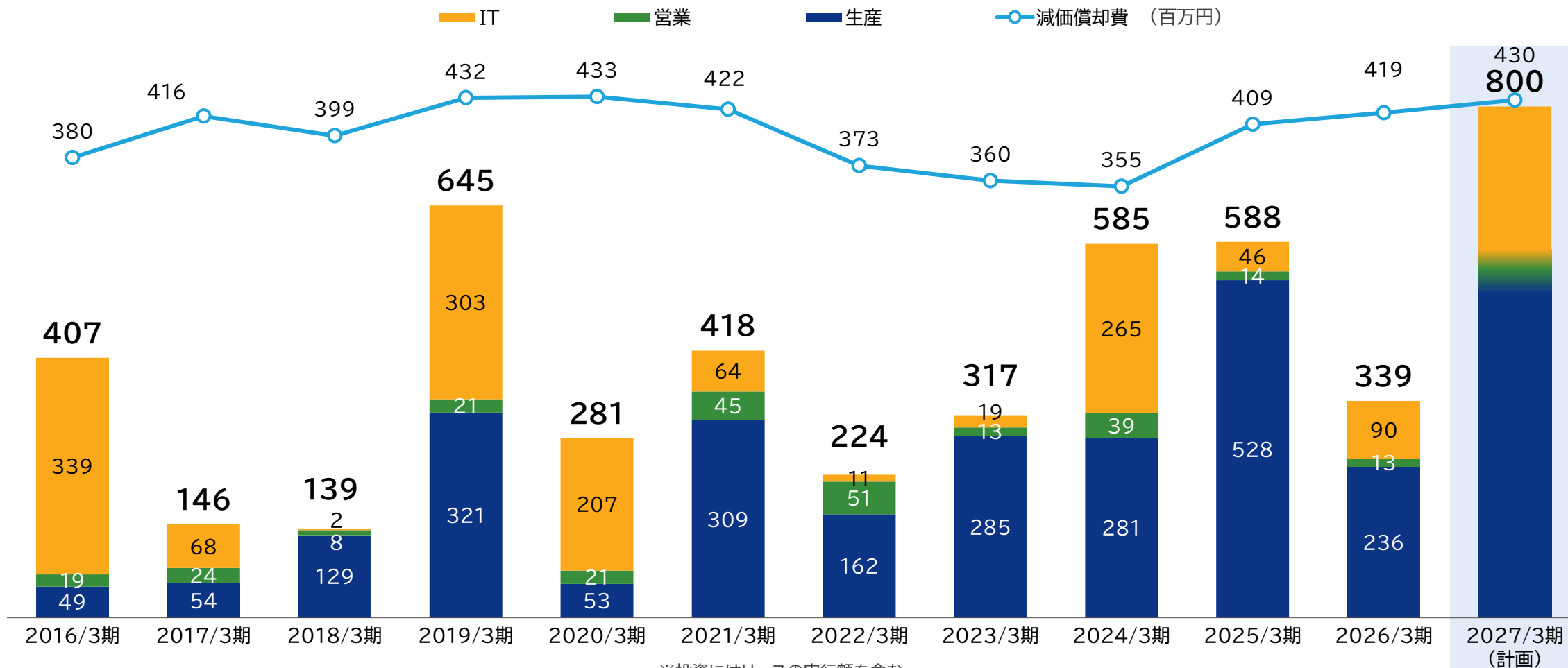
# 2027年3月期業績計画

- 受注量を確保しつつ採算性の向上を図る。リテール・メンテ強化の方針を継続、売上高増加を目指す
- 増収および売上総利益率の改善を図り、営業利益は増益を見込む

(百万円)	2026/3期 実績	2027/3期		
		計画	前期比	
			増減額	増減率
売上高	21,455	<b>22,000</b>	+545	+2.5%
営業利益	1,249	<b>1,320</b>	+71	+5.6%
経常利益	1,179	<b>1,230</b>	+51	+4.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	829	<b>800</b>	△29	△3.6%
1株当たり当期純利益(EPS)	131.05円	<b>126.34円</b>	△4.71円	—
ROE	8.3%	<b>7.7%</b>		

# 設備投資額・減価償却費の見通し

- 2026年3月期はシステム投資と生産設備更新を中心に年間3.4億円の設備投資を実施
- 2027年3月期は2026年3月期の期ずれを含め、年間8億円の設備投資を計画



※投資にはリースの実行額を含む



## 中期経営計画「TOYO ADVANCE 5」の進捗状況

## 建設業界

- ・資材・原材料価格は高止まり
- ・人手不足が顕著
- ・大手ゼネコンの受注抑制傾向

## 非住宅着工床面積

- ・大型物流倉庫の建設ラッシュが一服
- ・足元はリーマンショック後に匹敵する低水準
- ・国内設備投資需要の今後の動向は不透明

## シャッター市場

- ・新規参入のない寡占市場状態は当面続く
- ・中・大型案件での激しい価格競争
- ・環境に配慮した製品、施工の開発が急務

## 対応策

- 競争力の高い商品の開発と、付加価値向上による販売価格の維持向上
- メンテナンスなど収益性の高い事業分野への重点的な経営資源投入
- 生産性の向上と、施工エネルギーの増強

2030年3月期までの5年計画を策定

## 『TOYO ADVANCE 5』

腰を据えた成長戦略遂行が必須

「土台を固める」

「収益の獲得」

2026年3月期

2027年3月期

2028年3月期

2029年3月期

2030年3月期

## I 経営理念

私たちは「防ぐ」を合言葉に、すべてのユーザーへ安全・安心・快適・感動を提供し、持続可能な社会づくりに貢献します

## II 経営ビジョン

- (1)社会への貢献 「防ぐ」をキーワードに、ユーザーのいまと未来を守ります
- (2)企業力を磨く 社会から常に必要とされる企業となるために、企業品質を磨き続けます
- (3)独創性と挑戦 ニッチな発想力と果敢な実行力により、新たなマーケットの開拓を進めます
- (4)人財の育成 熱意と誇りを持って自ら動き、お客さまに信頼される企業人を育成します

## III 5年後に 目指すべき企業文化

使命・責任・評価が明確な風土  
情報や伝達が行き交うオープンな社風  
課題は必ず解決する体質

## IV スローガン

**「私たちは、自分の使命を常に考え、共有・協力し前進します」**

# 重要業績評価指標(KPI)の進捗状況

- 成長投資とニッチマーケット開拓によりPBR1倍以上を目指す

		2025年3月期 実績値	2026年3月期 実績値	2030年3月期 目標値
K P I	売上高	208億円	214.5億円	250億円
	営業利益	13億円	12.4億円	20億円
	ROE(自己資本利益率)	8.6%	8.3%	10.0%
	成長戦略商品売上高	7.5億円	7.9億円	20億円
	PER(株価収益率)	6.5倍	7.0倍	10倍
	配当性向	30.4%	32.0%	40.0%
	戦略的キャッシュアロケーション	10.7億円	8.6億円	15億円
	従業員エンゲージメント			
	ワークエンゲージメント	2.96	2.98	3.20
	帰属意識	3.22	3.23	3.50
GHG排出量	2,744tCO2	※2,145tCO2程度	1,945tCO2	

※速報値

# 事業戦略ピックアップ①

## 戦略部門への重点的な経営資源投入及び組織改革

- リテール・メンテナンス部門  
30名増員計画に対して12名の増員(2026年4月1日時点)
- 2025年4月に新設した商品開発部が中心となり、オープンイノベーションの取組をスタート

## 成長戦略商品のプロモーション強化と販売促進

- 東京ビッグサイトでの「GOOD LIFE フェア 2025」にフェーズフリー認証製品を出展  
「TS ウォータータイト」「TS ベンチタイト」「TS耐風セーブ」
- MAKE with活動から生まれた防音引き戸  
「TSスライドSAT」の販売好調
- 大阪府建築士事務所協会 創立50周年記念事業  
「OAAF EXPO 2025」にフェーズフリー商品を展示

## GOODLIFEフェア2025



フェーズフリー認証製品



TSウォータータイト

TSベンチタイト

軽量シャッター高耐風仕様  
TS耐風セーブ

## TSスライドSAT



## OAAF EXPO 2025



# 事業戦略ピックアップ②

## フェーズフリー製品などの競争力の高い成長戦略商品の開発強化

- 止水ドア「TS ウォータータイト」が内閣官房「国土強靱化 民間の取組事例集」に選定
- MAKE with活動として新たに港湾施設向けの防潮対策として「ワイヤー補強式水防引き戸」を開発し製品リリース

## 社員エンゲージメントの定期的計測と向上に向けた諸施策の実行

- 若手社員交流会やメンター制度等を活用し、仕事へのモチベーションアップを図る
- 2026年4月より65歳への定年年齢引き上げと65歳定年後の再雇用制度を開始
- 子ども手当の拡充を検討開始

### 国土強靱化 民間の取組事例集



### TS ウォータータイト

SL(レバーハンドル)タイプ PG(グレモンハンドル)タイプ



出典:内閣官房ホームページ  
[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo\\_kyoujinka/r8.minkan/index.html](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kokudo_kyoujinka/r8.minkan/index.html)

### ワイヤー補強式水防引き戸

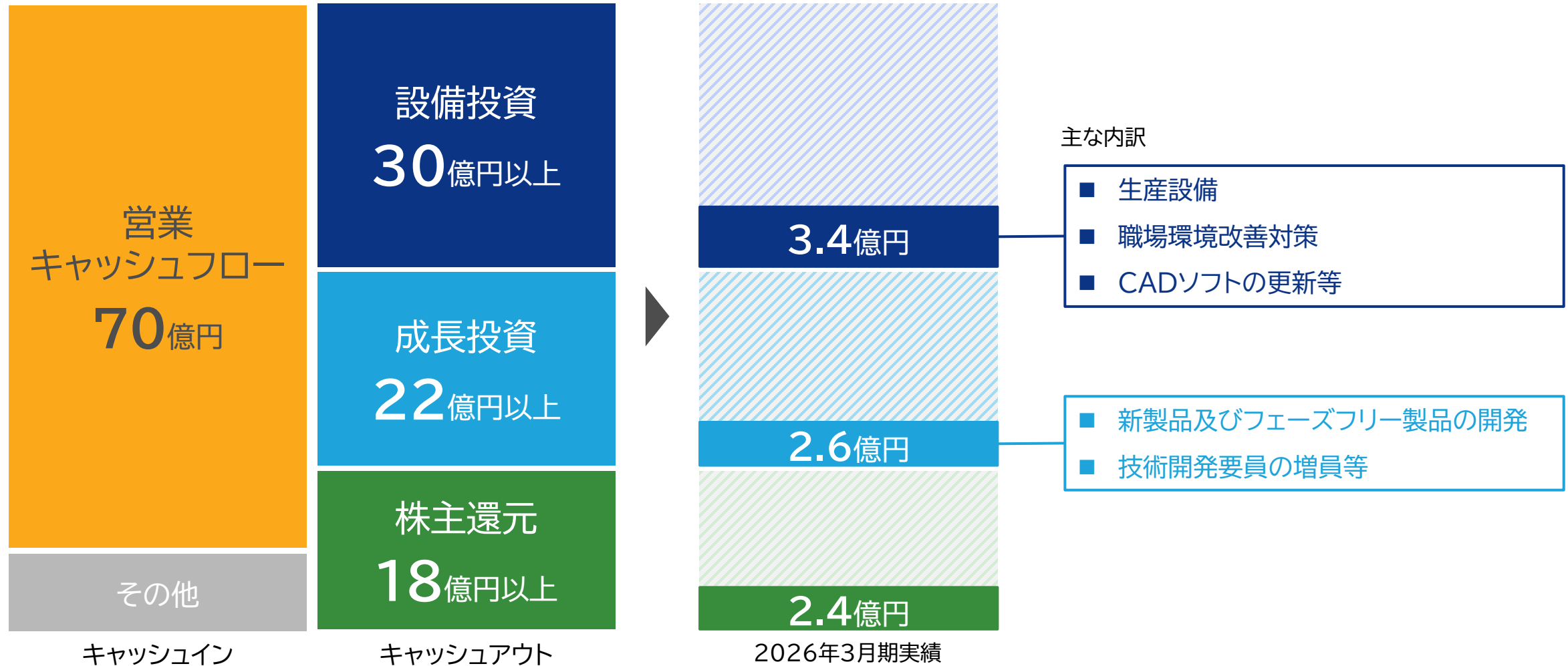


### 若手社員交流会



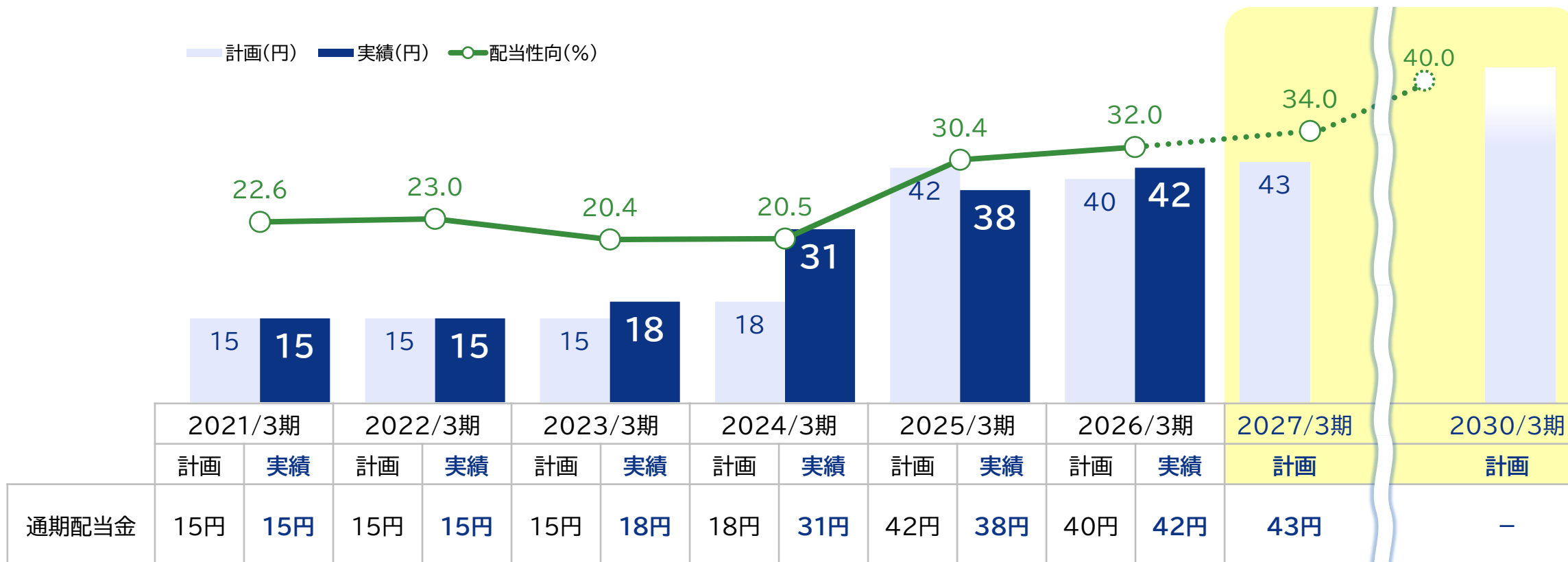
# 企業価値向上を目指した財務戦略(中期経営計画「TOYO ADVANCE 5」5年間)

- 確実な成長に向け、設備投資・成長投資(研究開発・M&A等)に経営資源を重点投入
- 株主還元には従来以上のキャッシュを活用



# 株主還元について

- 中長期的な企業価値向上と安定的な経営基盤の確保に努める
- 2030年3月期までに配当性向40%を目標とする





**TOYO ADVANCE 5**

## appendix

**TOYO**Shutter

# 会社概要

商号	東洋シャッター株式会社
設立	1955年9月10日
資本金	20億2,421万円
株式上場	東証スタンダード市場(No.5936)
本店所在地	大阪府中央区南船場2丁目3番2号 南船場ハートビル12F
代表者	代表取締役社長 岡田 敏夫
従業員数	543名(2026年3月末連結)
事業所	2本社、10支店、1営業部、61営業所・メンテサービスセンター その他特約店、取次店全国主要都市
製造施設	奈良工場、つくば工場、九州工場
子会社	南東洋シャッター株式会社

1955年	9月	大阪市西淀川区でシャッターの販売を目的として創業
1973年	10月	東京本社を東京都中央区に開設し、二本社体制
1987年	10月	(株)日本シャッター製作所と合併 九州支店、鹿児島支店、枚方工場、九州工場、(株)南日本シャッター製作所を継承
1989年	2月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
1989年	9月	東京証券取引所および大阪証券取引所の市場第一部に指定替え
1993年	3月	つくば工場を新設し、土浦工場を閉鎖
2000年	5月	枚方工場を閉鎖し、奈良工場に集約。九州工場を鹿児島に集約移転
2003年	7月	大阪市中央区南船場に本社移転
2011年	2月	独ハーマン社と資本・業務提携契約締結
2012年	5月	中期経営計画「JUMP UP 3」を策定
2015年	5月	中期経営計画「POWER UP 3」を策定
2018年	5月	中期経営計画「BRUSH UP 3」を策定
2021年	5月	中期経営計画「BRUSH UP 3+1(プラスワン)」を策定
2022年	4月	東京証券取引所スタンダード市場に移行
2022年	5月	中期経営計画「TOYO REBORN 3」を策定
2025年	5月	中期経営計画「TOYO ADVANCE 5」を策定

# TOYOShutter

この資料には、当社の業績や事業計画などに関する将来的予想を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予想に関する記述および資料は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想です。実際の業績などは、今後の経済動向、その他の社会・政治情勢等様々な要因により、記述されている将来予想とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2026年6月